


ケータイ(携帯電話)を使ってカルタづくり

Key word  カルタづくり・ケータイ・移民カルタ・カルタ大会・共感的理解

1 展示および資料館との関連

- ・海外移住資料館の各種展示品
- ・「移民カルタ」
- ・海外移住資料館展示案内「われら新世界に参加す」



2 教科領域との関連性

- ・総合的な学習の時間 特別活動(校外活動)

3 実施時期および総時数

総合的な学習の時間、校外活動時とその事前・事後学習時数、指導形態に合わせて弾力的に運用

4 単元(活動)目標

- ・カルタづくりを通して、学校やクラスなど集団で資料館を訪れた生徒たちが展示品を調べて表現し、その成果を発表する。
- ・自分たちのつくったカルタを使ってカルタ大会を行い、移民や日系人について共感的に学習する。

5 単元について(教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など)

高校では、「博物館などの施設や地域の文化遺産について関心を高め、文化財保護の重要性について理解する」(高等学校学習指導要領地歴科「日本史B」など、博物館の積極的な活用が提起されている。資料館には、エントランスに展示された「野菜山車」のレプリカをはじめとして、日本人移民やその子孫(日系人)に関する生活用具や写真、模型などの貴重な資料が五つのコーナーに分けて展示されており、高校の地歴科での授業や総合的な学習の時間での活用が可能である。

しかし、それらがたとえどんなに貴重な資料であっても、学校やクラスなど集団で訪問した場合には、生徒たちに展示資料をじっくりと調査させたり鑑賞させたりすることはなかなか難しい。国立教育政策研究所が教員と高校三年生を対象に行った質問紙調査(教育課程実施状況調査、2003年11月実施)によれば、博物館等の施設を活用していないと回答したものが、教員と生徒の双方ともほぼ8割に達している。高校では博物館などの施設がほとんど活用されていないのが実態といえる。その理由として、博物館をどう活用するかについての具体的な提案や方法が少ないことがあげられる。特に、学校やクラスのメンバーが一体となって活動できるようなアクティビティは皆無といってもよい。クラス全体が参加できるアクティビティとして、今回、カルタづくりを紹介する。カルタの絵札については、館内の展示品を自由に写真撮影ができることに着目し、高校生の必須アイテムであるケータイ(携帯電話)の内蔵カメラを用いてつくることにした。

このアクティビティは、生徒たちに前もって「イロハ48文字」の中から文字を割り当て、展示品を題材にその文字に対応する絵札と読み札をつくることで、オリジナルなカルタづくりを行うという活動である。クラス全員の分業と協業による作業を通して、クラス全員が協力して博物館の展示を学ぶことを目指した活動である。カルタづくりにあたっては、海外移住資料館が制作した「移民カルタ」が大変参考になる。事後学習として、「移民カルタ」や自分たちがつくったオリジナルカルタを使ってのカルタ大会を学校やクラスで行ってみるのも面白い。

6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 学校やクラスで「移民カルタ」を使ってカルタ大会を行い、展示品や日本人移民の歴史・生活について学習する。「移民カルタ」から気づいたことをノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「移民カルタ」を通して、移住資料館の展示品や日本人移民・日系人の歴史・生活について理解させる。 ○「移民カルタ」に実際に触れることで、カルタづくりに対する興味や関心を高める。
資料館見学	<ul style="list-style-type: none"> 資料館を見学し、展示品を題材にして「イロハ48文字」の中から割り当てられた文字に対応する絵札と読み札をつくる。 資料館の展示品の中から、日本人移民や日系人の歴史や生活を象徴するものをケータイ（携帯電話）の内蔵カメラで撮影し、解説文を記録する。これをもとに絵札と読み札を考える。 <p>■絵札のつくり方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ケータイ（携帯電話）内蔵のカメラで展示品を撮影する。 ②写真をケータイ（携帯電話）からPiviへ赤外線を送信して、プリントアウトする。 ③プリントアウトした写真（絵札）の右上に赤色の円形シールを貼り、割り当ての文字を書き込む。 <p>■読み札のつくり方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①読み札の右上に黄色の円形シールを貼り、割り当ての文字を書き込む。 ②絵札（写真）を見て、解説文や展示案内を参考にしながら、読み札の文句を考え、読み札に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○カルタづくりで用意するもの <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話（内蔵カメラ付き、データの赤外線送信ができる型） ・ケータイプリンタPivi（富士フィルム製）および専用フィルム（絵札として使用） ・厚手の画用紙（読み札用として使用） ・円形シール（直径16mm・赤、黄の2種類。読み札と絵札に貼る糊付きのもの。赤は絵札用、黄は読み札用） ・油性サインペン（黒） ○読み札の文句は、「3行15字～25字程度」ないしは「5字-7字-5字」で表現するとよい。
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのつくったカルタを使ってカルタ大会を実施し、その作品を通して日本人移民・日系人の歴史や生活について学習する。また、日本人移民・日系人に関して学んだことや感じたことを、クラス内で話し合い、レポートとしてまとめ、提出する。 	<p>▲資料館の展示品を使ってつくったカルタの例</p>

7 評価

- ・「移民カルタ」から、展示品や日本人移民や日系人の歴史・生活について理解できたか。
- ・展示品の中から適切な資料を選び、日本人移民や日系人の歴史・生活を表現した絵札や読み札をつくることができたか。
- ・自分たちの作ったオリジナルカルタを使ってカルタ大会を行い、その作品を通して日本人移民や日系人の歴史・生活について理解し、移民に対して共感の念をもつことができたか。

8 授業づくりのための参考資料

- ・「移民カルタ」
- ・海外移住資料館展示案内「われら新世界に参加す」

(田尻信壹)

第二次世界大戦と日系人

Key word 危険敵性外国人・強制収容所・大統領行政命令9066号・日系人補償法・証言映像

1 展示および資料館との関連

- ・拘禁された日本人が妻と交わした書簡（1942年）
- ・第二次世界大戦中の収容所（写真）
- ・西部防衛司令官の強制退去命令の公共布告（1942年5月3日）
- ・証言映像（戦中編）
- ・日系人に対する強制退去命令の布告（英文）

2 教科領域との関連性

- ・地理歴史科世界史A「二つの世界戦争と平和」
- ・地理歴史科世界史B「二つの大戦と世界」
- ・総合的な学習の時間

3 実施時期および総時数

時 期：世界史の場合は、現代史学習の中で扱う。

時 数：単元や指導形態に合わせて弾力的に運用する。



▲第二次大戦中の収容所

資料提供：米国議会図書館

Library of Congress, Prints & Photographs Division, Ansel Adams, photographer, LC-A35-T01-6-M-79 DLC

4 単元（活動）目標

- ・第二次世界大戦下の日本人やその子孫（日系人）が移住先で様々な困難に直面したことを理解する。
- ・アメリカ合衆国やカナダでは、日系人が危険敵性外国人とされ、強制収容所に送致されたり、厳重な監視下に置かれ、困難な立場にあったことを理解する。また、ブラジルやチリ、アルゼンチンなどでは、比較的寛大な取り扱いを受けたことを知る。

5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

高等学校学習指導要領解説地理歴史編「世界史B」によれば、「第二次世界大戦を、ファシズム勢力と民主主義勢力との戦争というように単純化してとらえるのではなく、戦争がもっていた複雑な性格を視野に入れて把握させる」としている。本活動では、太平洋戦争（第二次世界大戦）が勃発すると、海外に移住した日本人やその子孫（日系人）が戦争の影響を受けて、移住先で様々な困難に直面したことを取り上げる。

アメリカ合衆国では、日系人に対し国籍に関係なく「危険敵性外国人」と見なし、強制収容所に送致したり、厳しい監視下に置くなどの政策が実行された。ルーズベルト大統領の「大統領行政命令9066号」（1942年）によって、太平洋岸に居住していた約12万人の日系人が、砂漠や湿地につくられた強制収容所に収容され、悪環境のもとで自由とプライバシーの制限された生活を強制された。日系人2世からなる部隊（第442連隊）が組織され、ヨーロッパ戦線で多くの犠牲を払いながら勇敢に戦い、アメリカ社会での信頼回復を果たした。展示場には、西部防衛司令官の強制退去命令の公共布告（和文）や拘禁された日本人が妻と交わした書簡（英文）、強制収容所の写真などがある。これらの展示品を通して、第二次世界大戦中のアメリカ合衆国における日系人の困難な生活を追体験できる。とくに、拘禁された日本人が妻と交わした書簡については、高校生でも読むことが十分可能な英文なので、生徒に読ませたい。

戦争中の日系人の取り扱いについては、各国で違いが見られたことを取り上げ、そのことが日系人の生活に大きな影響を与えたことを理解する。ペルーを除く南米のブラジルやチリ、アルゼンチンなどでは、日系人の強制収容などはほとんど行われず、不自由な生活を余儀なくされながらも比較的寛大な取り扱いを受けた。また、ハワイでは、日本軍のパールハーバー奇襲攻撃があったにもかかわらず、少数を除いて米本土で見られたような強制収容は行われなかったことに触れる。戦時下の日系人の生活については、証言映像の戦中編を活用する。

アメリカ合衆国では、1970年代に入ると、日系人による強制収容に対する補償と権利回復を求める運動が進められ、1988年にレーガン大統領が日系人補償法（賠償法H.R.442）に署名し、1990年から政府による謝罪文と補償金が渡されたことを取り上げる。日系人がアメリカ社会のマイノリティの権利伸張に貢献したことを取り上げることは、多文化教育を進める上での重要な視点である。

6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1 第二次世界大戦中の日本とアメリカ合衆国やカナダ・ラテンアメリカ諸国との関係について調べる。 2 第二次世界大戦中のアメリカ合衆国やカナダで、なぜ日系人が「危険敵性外国人」として強制収容所での生活を強制されたのかについてまとめる。 3 第二次世界大戦中のハワイやラテンアメリカ諸国での日系人の生活について調べ、アメリカ合衆国やカナダでの取り扱いとの違いを比較する。 4 1970年代以降、アメリカ合衆国では、日系人への強制収容に対する補償と権利回復を求める運動が盛んになったことについて調べる。 	第二次世界大戦中に日系人が体験した困難な状況については、強制収容所での体験記を活用するとよい。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1 第二次世界大戦中の日系人の取り扱いに関する展示品や解説パネルを探し、その内容をメモする。 2 証言映像・戦中篇を視聴し、その内容をメモする。 <ol style="list-style-type: none"> ① ゴードン・カドタ ② ジョージ・ヒデオ・タカバヤシ ③ ジョージ・カタギリ ④ 河合武夫 ⑤ 菅井栄四 3 「拘禁された日本人が妻と交わした書簡」（1942年、英文）を翻訳し、彼らがどのような気持ちで手紙を書いたか、想像する。 	1988年、日系人補償法（賠償法H.R.442）にレーガン大統領が署名したことを取り上げ、日系人がアメリカのマイノリティの権利伸張に貢献したことについて触れる。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1 資料館でのメモをもとに、展示品や解説パネルの一覧を作成する。 2 資料館の映像証言や展示品から分かったことをもとに、第二次世界大戦中の日系人の生活に関する発表やレポート作成を行う。 	

7 評価

事前学習

・第二次世界大戦中の日米関係や、日本とカナダやラテンアメリカとの関係が説明できたか（ノート・発言）。

見学

・第二次世界大戦中の日系人の生活を記録した展示品や映像証言を探し、その内容を記録することができたか（見学ノート）。

事後学習

・展示品や映像証言の内容に基づいて、第二次世界大戦中の日系人の困難な状況について、当時の国際情勢を踏まえて発表やレポート作成ができたか。

8 授業づくりのための参考資料

- ・森茂岳雄編著『多文化社会アメリカにおける国民統合と日系人学習』（明石書店、1999年）
- ・M.O.タンネル & G.W.チルコート著、竹下千花子訳『トパーズの日記ー日系アメリカ人強制収容所の子どもたちー』（金の星社、1996年）
- ・アケミ・キクムラ＝ヤノ編、小原雅代他訳『アメリカ大陸日系人百科事典』（明石書店、2002年）
- ・ヨシコ・ウチダ著、波多野和夫訳『荒野に追われた人々ー戦時下日系米人家族の記録ー』（岩波書店、1985年）
- ・ドロシー・マツオ著、新庄哲夫訳『若者たちの戦場ーアメリカ日系二世第442部隊の生と死ー』（ほるぷ出版、1994年）

（田尻信壹）

紙芝居・カルタで学ぼうニッケイ

Key word  移民の歴史的経験・紙芝居・カルタ・物語・ジグソー学習

1 展示および資料館との関連

・紙芝居

- 「海を渡った日本人」(写真①)
- 「ハワイにわたった日系移民」(写真②)
- 「弁当からミックスプレートへ」(写真③)
- 「カリナのブラジルとニッポン」(写真④)



◀ 写真①



▲写真②



▲写真③



▲写真④

2 教科領域との関連性

- ・総合的な学習の時間
- ・小学校6年生社会科「日本と関係の深い国々」

3 実施時期および総時数

- 時 期: いつでも可(単元や活動にあわせて)
- 時 数: およそ2時間(指導形態に合わせて弾力的に運用)

4 単元(活動)目標

- ・紙芝居やカルタを通して、日系移民の歴史的経験や現状について理解し、紙芝居の登場人物を通して心情的に豊かに日系移民について考える。
- ・グループで紙芝居を読み内容について報告しあう中で、仲間とコミュニケーションをとりながら主体性をもって学習に参加する。

5 単元について(教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など)

本活動で使用する紙芝居4編はそれぞれ特色がある。「海を渡った日本人」は日系移民の歴史全般を資料館に展示してある写真を中心に概説的に編集したものである。「ハワイにわたった日系移民」は、小学校6年生の少女リカと親戚関係にあるハワイ在住日系3世の少女ケイティを主人公に、当時の写真をもとにして描かれた絵や写真から、ハワイ日系移民の歴史的経験を概観した物語である。「弁当からミックスプレートへ」は、明治時代にハワイに渡った千代さんと惣太郎さんを主人公に、ハワイの多文化社会について移民の食文化変容と日系移民史を通して描いた物語である。「カリナのブラジルとニッポン」は日系ブラジル人二世の子どもが日本の学校生活を送る中で抱えている課題をもとに描いた物語である。

本学習活動ではジグソー活動を取り入れる。ジグソー活動とは、アメリカのエリオット・アロンソンによって多文化的学級で人種の壁を乗り越えて共同して学習を進めることを目的として開発されたものである。この活動方法は「小グループで紙芝居を読みあう」活動に適するだけでなく、日系を含め外国籍の児童生徒が在籍する学級ではさらに効果を発揮することができる。

まず、5人前後の小グループで「海を渡った日本人」を読み感想を話しあうことを通して、日系移民に関する概要の理解を図る。次に、それぞれのグループから1人ずつが集まり新たな5人前後の小グループを構成し、そのグループで「ハワイにわたった日系移民」「弁当からミックスプレートへ」「カリナのブラジルとニッポン」のいずれかの紙芝居を読み、感想を話しあう。再度、はじめのグループに戻り、それぞれのグループで読んだ紙芝居について内容、感想を伝え合う。この学習方法によって、それぞれの子どもの活動への参加度は高くなり、また、紙芝居を効果的に用いることができる。

6 展開計画

時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点・支援
1	<p>1 4～6人グループを作り、紙芝居「海を渡った日本人」を読む。</p> <p>2 「海を渡った日本人」の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「移民」「日系人」という言葉の意味がわかった。 ・移民した人たちが苦勞をしたことを始めて知った。 ・戦争中には、敵国人としてつらい経験をしたのだね。 ・難しくてよくわからなかったけれど、移民をした人たちがいたことはわかった。 <p>3 「移民カルタ」で遊びながら調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この絵札の写真は一体何かな。 ・絵札裏の解説を読んでみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居が長いので、読み手と聞き手を交代しながら読んだり、発達段階によっては教師が音読したりするなどの工夫が必要。小学生を対象とする場合は、読み手に保護者の協力を依頼することも可能。 ・カルタを行う場合にも、対象学年によって工夫した展開が必要である。とった枚数の勝負ではなく、とったカードについてカードの意味を考えることを大事にする。
2	<p>4 新しいグループを作り、紙芝居「ハワイにわたった日系移民」「井当からミックスプレートへ」「カリナのブラジルとニッポン」からの1つを読み感想を出しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日系移民の歴史は今も続いているのだね。 ・移民した先で日本らしい文化が残されたり、新しい文化が生まれたりしたことがわかった。 ・日本にいる日系の子どもたちの気持ちをもっと知りたい。 <p>5 元のグループに戻り、新しいグループで読んだ紙芝居についてその内容と感想を伝え合う</p> <p>6 四つの紙芝居とカルタを用いた学習活動を振り返り、感想文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで移民の歴史や日系の人々について考えたことはあまりなかったけれど、自分たちが知らない100年があったのだなあ。 ・紙芝居やカルタだけでなく、本を読んだり資料館に行ったりしてもう少し詳しく知りたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいグループの構成はあらかじめ指定すると活動に入りやすい。「カリナのブラジルとニッポン」が読みやすく、早く活動が終了することが予想されるので学校や地域に適した補足資料を用意しておくことよい。 ・それぞれの紙芝居についての内容などを詳細に聞き取るように、ワークシートを作成しておくことよい。6の感想文記入とあわせた形でワークシートを作成しておくこと、そのまま学習評価に使用することも可能である。


7 評価

- ・紙芝居を読むこと、カルタで遊ぶことを通して、日系移民の歴史的経験や現状について理解し興味をもつことができたか。
- ・紙芝居の登場人物を通して心情的に豊かに日系移民について考えることができたか。
- ・グループ活動において主体性をもって紙芝居やカルタを用いた学習に参加したか。
- ・仲間とコミュニケーションをとりながら活動をするを通して、感想を述べ、考えを文章に表現することができたか。

8 授業づくりのための参考資料

- ・「移民カルタ」 ・紙芝居4編
- ・エリオット・アロンソン他著、松山安雄訳『ジグソー学級—生徒と教師の心を開く協同学習法の教え方と学び方—』原書房、1986年。
(中山京子)

紙芝居・カルタでビンゴ

Key word  日本人の海外移住・日系人・カルタ・紙芝居・ビンゴゲーム

1 展示および資料館との関連

- ・紙芝居「海を渡った日本人」(写真①)
- ・「移民カルタ」(写真②)



▲写真①



▲写真②

2 教科領域との関連性

- ・中学校社会科「地理的分野」
- ・選択教科社会
- ・総合的な学習の時間

3 実施時期および総時数

- 時 期：いつでも可（単元や活動にあわせて）
 時 数：およそ2時間（指導形態に合わせて弾力的に運用する）

4 単元（活動）目標

- ・紙芝居やカルタの内容をもとに、ビンゴゲームを楽しみながら、海外へ渡航・移住した日本人の歴史的事実を理解する。
- ・紙芝居やカルタの内容について話し合い、ビンゴゲームを通して積極的に学習に参加する。

5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

日本人は1868年にハワイ、グアムに海外渡航をして以来、北米（アメリカ合衆国、カナダ）、中南米（ブラジル、アルゼンチン、ペルー、キューバ、メキシコなど）、東南アジア諸国など世界各地へ海外渡航し、その一部の人たちは現地に定住するようになった。多くの移住者は、過酷な労働条件によるプランテーションでの労働や戦争による苦難を乗り越え、また、異文化に適應するための様々な工夫・努力を重ねながら、自らの人生を切り開いていった。こうした海外渡航・移住した日本人（日系移民）の学習には、戦争により収容所へ送致された歴史的事実や、プランテーションでの労働形態といった地理的な内容、あるいは渡航先の異文化理解など、様々な学習要素が含まれている。紙芝居、「移民カルタ」は、このような日系移民に関わる個人的な体験や現地での歴史的地理的内容を、具体的にかつ楽しみながら知ることができるように工夫されている。

本活動は、「移民カルタ」に書き込まれている日系移民に関する知識・情報を分類・整理し、それをもとに作ったビンゴゲームをやることで、ゲーム感覚で楽しみつつカルタから得た知識・情報を再確認し、日本人の海外渡航・移住に関する理解を深めることをねらいとしている。

ビンゴゲームのやり方は、まずゲームを始める前に、B、I、N、G、Oのそれぞれの列に、右のB、I、N、G、Oの各列の語群の中から5つないし4つの好きな語句を選んで記入しておく（ビンゴカード参照）。ゲームスタートで教師が「B⇒ミックスプレート、I⇒サンバ、N⇒ロサンゼルス……」と次々に読み上げていく。たて、横、ななめ、どの方向でもまず目が5つそろったら「ビンゴ!」と大きな声で叫ぶ。テンポよく進めると楽しく子どもものってくる。

6 展開計画

時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点・支援
1	<p>1 「移民」について理解しよう。</p> <p>(1) 「移民カルタ」をしてみよう。どんな言葉がでてくるだろう。</p> <p>(2) カルタ終了後、札をもっている生徒がカルタの裏に書かれてある内容を発表し、内容ごとにいくつかに分類してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ、カナダ、ハワイ、ブラジル（ペルー）、戦争中のこと、海外渡航の様子、日本文化の伝承、故郷の様子、移民政策など <p>(3) カルタにでてきた国名、地名を地図で確認しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するとき、表の絵札の写真にも注目させる。 ・分類する際、教師が分類項目を提示しておく、活動が進めやすい。 ・次回、この分類をもとにビンゴゲームをやることを予告しておく。
2	<p>2 ビンゴゲームをしよう。</p> <p>(1) 出てきた地名や語句について確認しよう。</p> <p>(2) ゲームをしてみよう。</p> <p>3 紙芝居「海を渡った日本人」を読み、感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人が明治時代から海外へ渡航していたことがわかった。 ・海外へ移民した人は生活しやすいように、いろんな工夫をしていることを知った。 ・日系人は戦争中、差別されていたことがわかった。 ・なぜ、海外移民をしたのか、知りたい。 <p>4 日本人の海外渡航について、「移民カルタ」、紙芝居、ビンゴゲームを通してわかったこと、感じたことを各自レポートとしてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用紙を配り、ゲームのやり方を説明する。そのあと地名や語句の内容を簡単に復習するとよい。 ・時間があれば、2～3回続けてゲームをやっても楽しい。 ・ビンゴゲームは、語群を変えればいくつもの種類が作れる。要領がわかってきたら、生徒に作らせてもよい。移民に関する知識の定着を図ることができる。

7 評価

- ・カルタ、紙芝居を通して、日本人の海外渡航の歴史的事実や経験について理解し、興味をもつことができたか。
- ・カルタ、紙芝居、ビンゴゲームなどの学習活動に、積極的に参加したか。

8 授業づくりのための参考資料


ビンゴカード <Let's enjoy Imin Bingo!>

B列 ハワイ					
I列 南米					
N列 北米			FREE		
G列 文化／政策					
O列 海外渡航					

- B列** 餅つき／ミックスプレート／盆ダンス／さとうきび／プランテーション／ホレホレ節／マウイ島／永住
- I列** アリサンサ／コーヒー農園／パラナ州／マラリア／サンパウロ／サンバ／ペルー／パラグアイ
- N列** シアトル／パークレー／ロサンゼルス／フレーザー河／サーモン漁／エンシャーダ／442部隊／リトル・トウキョー
- G列** 日系人／ララ物資／移民会社／官約移民／チキンラーメン／太鼓／敵性外国人／シュラスコ
- O列** ピクチャーブライト／ケープタウン／サントス港／パSPORT／トランク／笠戸丸／パナマ運河／出稼ぎ

(小林茂子)

ブラジルに渡った日系移民について調べよう

Key word  日系ブラジル人・異文化適応・海外渡航・プランテーション労働・カルタ・紙芝居

1 展示および資料館との関連

- ・紙芝居「カリナのブラジルとニッポン」（写真①）
- ・「移民カルタ」（写真②）



▲写真①



▲写真②

2 教科領域との関連性

- ・中学校社会科「地理的分野」
- ・選択教科社会
- ・総合的な学習の時間

3 実施時期および総時数

- 時 期：いつでも可（単元や活動にあわせて）
- 時 数：およそ4時間（指導形態に合わせて弾力的に運用する）

4 単元（活動）目標

- ・ブラジルに渡った日本人について、その歴史的事実や現地での労働、生活などについて理解する。
- ・日系ブラジル人の歴史や生活について、興味・関心をもち、積極的に調査・発表する態度を養う。

5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

中学校社会科の地理的分野では、ブラジルの学習については「北アメリカ・南アメリカの国々」の中で部分的に取り上げられている。また、「自由研究」の中でも取り上げられている例がみられる。これらのなかで日系ブラジル人については、例えば、現行の教科書の一つには「明治時代になって日本からの移住が始まり、現在では130万人をこえる日系人がブラジルで生活しています。いっぽう、日本国内にも現在、日系ブラジル人が25万人以上住んでいる」といった簡単な記述で説明されている。しかし、ブラジル学習の中で日系ブラジル人に着目することは、移民政策を通して見た日本・ブラジル間の外交的側面や農業形態などの地理的な違い、また、現在の日本の外国人問題など様々な角度から学習を組み立てることができる。

本活動は、「移民カルタ」や、日系ブラジル人三世の女の子の目を通して、日系ブラジル人の問題を描いた紙芝居「カリナのブラジルとニッポン」を使って、日系ブラジル人に対する興味・関心をもち、そこから疑問点を出し合いながら学習テーマをたて、調べ学習を進めるといった内容である。自分たちでつくったテーマにそって日系ブラジル人について調べ、その成果を様々な表現方法で発表することで、日系ブラジル人を中心とした日本とブラジルの関係をより深く理解させることをねらいとしている。

調べ学習については、中学校学習指導要領・地理的分野では「地域の規模に応じた調査」が学習内容の柱の一つとなっており、「地理的なまとめ方や発表の方法」、「地域の規模に応じた調べ方、学び方」を身に付けることを謳っている。本活動では、カルタや紙芝居といった楽しく学べる教材を通して、日系ブラジル人について興味を引き出しつつ、「調べる」「表現する」「発表する」といった主体的な学習活動を支援していきたい。

6 展開計画

時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点・支援
1	<p>1 紙芝居「カリナのブラジルとニッポン」を読み、感想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人はブラジルの農園で苦労して働いていたことを知った。 ・日系ブラジル人は現地で日本語学校を作って、日本語を忘れないようにしていたことがわかった。 ・日本でブラジル人のお母さんが病気になって、日系ブラジル人の子どもが医者に通訳をしてあげるのは面白いと思った。 <p>2 「移民カルタ」をしよう。</p> <p>3 日系ブラジル人に関する句に着目しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カルタ」の日系ブラジル人に関する札をもっている生徒が絵札の裏の解説を発表する。 ・ブラジルのサンバや大相撲、コーヒー園での労働、綿花栽培、日本食を工夫した食事内容、渡航方法、トランクの中味など 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に地理の教科書、地図帳を使って、ブラジルに関する基本的事項（人口、面積、地形、首都、日本との距離など）を確認しておくとうい。 ・カルタを通して、ブラジル以外にも世界各地に日本人が移民・定住したことに気づかせる。 ・発表するとき、絵札の写真にも注目させる。
2・3	<p>4 日系ブラジル人の歴史や生活について調べよう。</p> <p>(1) 6～7人のグループをつくる。</p> <p>(2) グループごとに疑問点を出し合い、その中から調べるテーマをきめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ、日本人はブラジルに移住したのだろうか」 ・「日系ブラジル人の現地で生活しているのか」 ・「日本にはどのくらいの日系ブラジル人がいて、どんな仕事をしているのだろうか」 <p>(3) 発表方法をきめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント、新聞づくり、インタビュー記録、地図づくり、ポスターづくりなど <p>5 テーマにそって調べ、内容をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマをきめる際、調べる方法についても助言する。例えば文献資料、統計資料、インターネットの活用、インタビューの実施など。（インターネットでは特に「ありあんさ通信」のホームページが参考になる） ・グループ内での役割分担や、調べる手順なども調査の前にきめておく。
4	<p>6 各グループで調べた内容を発表し、意見・質問を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーヒー農園や綿花栽培の労働の様子がわかった。 ・50日以上も船に乗って渡航することは大変だと思った。 ・写真や地図を入れると内容がわかりやすかった。 ・移民は農村の経済状態に関係があることがわかった。 <p>7 調べてわかったこと・感じたこと、発表を聞いてわかったことなどを各自レポートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの方法についても支援し、他のグループの内容をしっかりと聞くように注意を促す。

7 評価

- ・「移民カルタ」、紙芝居「カリナのブラジルとニッポン」、あるいは自分たちが調べた学習や発表内容から、日系ブラジル人の歴史や生活について理解できたか。
- ・自分たちがたてた学習テーマにそって、日系ブラジル人の歴史や生活について興味・関心をもって調べ、意欲的に発表しようとしたか。

8 授業づくりのための参考資料

- ・「移民カルタ」、紙芝居「カリナのブラジルとニッポン」
- ・『歴史地理教育 特集 近現代史のなかのブラジル移民・移住』No.674、2004年9月。
- ・『海外移住資料館展示案内 われら新世界に参加す』

(小林茂子)

移民カルタを使ってみよう

このカルタは「日系移民」をテーマに、日本から海外に移住した人々の歴史、日系二世三世の経験、在日日系人について学べるようになっています。例えばア行をご紹介します。

- あ** 阿波おどり ブラジル風は サンバかな **え** エンシャード 引く手に落ちる 汗涙
- い** 一杯の コーヒーに想う ブラジル農園 **お** お仏壇 神棚心の支えとし
- う** 海を越え ピクチャーブライド 夢いだき

絵札の写真は本資料館の展示からとりこんでいます。資料館見学の事前事後学習にも効果的にご活用いただけます。絵札の裏には読み札の句に関する解説がありますので、遊びながら日系移民の歴史について理解を深める事ができるほか、調べ学習に活用する事も可能です。活用方法の工夫により、小学校中学年から大人までを対象としています。

こころよい 調べで癒す
蓄音機

写真の蓄音機は、1940年頃にペルーにあるアレキパ市の日系人家庭で使用されていたものです。仕事の疲れを癒す大切なもののひとつだったことでしょう。

こころよい
調べで癒す
蓄音機

しら
い
ちくおんき



さとうきび 刈っても刈っても なくならない

ハワイなど、海外の農場の規模は、日本とくらべ想像もできないほど大きく、多くの移住者は重労働に苦しみました。ハワイの移住者はホレホレ節などの労働歌を歌って励まし合いながら働きました。

さとうきび
刈っても刈っても なくならない

か
か



せ



戦争が

一世二世

悩ませる

戦争が 一世二世
悩ませる

第二次世界大戦時、日系人は両国の間で苦しみました。アメリカの軍隊に入り「敵性外国人」という日系人への偏見をなくそうとした若者もいました。多数の死者を出した日系人部隊として知られる「442部隊」は、米国最強の部隊とよばれました。

Go For Broke 442

と



隣の子

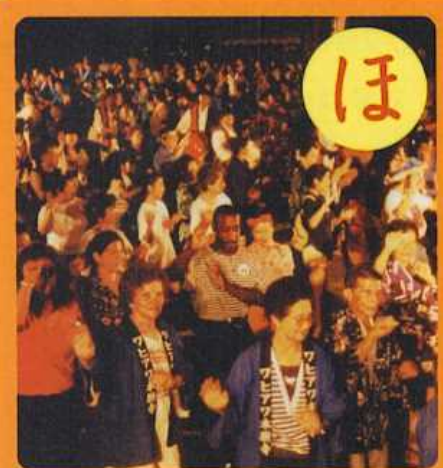
ブラジルからの

転入生

隣の子 ブラジルからの
転入生

1990年に日本の法律が改正され、日系人に限って定住が認められるようになりました。1991年にはブラジルからの日系人は十数万人に達しました。そしてこういった人々と共に多くの子ども達も日本にやってきています。

ほ



盆ダンス

常夏ハワイで

大人気

盆ダンス 常夏ハワイで
大人気

ハワイや南米の日系社会では、盆ダンス（盆踊り）を楽しみにしている人が大勢います。日系人の会館では、盆ダンスのサークルもあります。

紙芝居を使ってみよう

海を渡った日本人



「海を渡った日本人」(全10枚)は、写真を用いて日系移民の歴史全般について概説したものです。海を渡った日本人、移民黎明期、官約移民、北米へ、南米へ、トランクへつめたもの、戦争中、戦後、食卓から、三世からのメッセージで構成しています。紙芝居の写真はすべて展示してある物や写真であり、資料館見学の事前事後学習にも効果的に活用できます。

対象は小学校高学年から



「ハワイにわたった日系移民」(全12枚)は、ハワイ日系移民の歴史を小学校6年生の少女リカとハワイへの移民体験をもつ祖母を主人公に描いています。親戚関係にあるハワイ在住日系3世のケイティの来日を契機にリカは初めて移民について祖母から話を聞きます。曾祖母、祖母父、ハワイのケン、マイクが登場し、戦前戦後のファミリーヒストリーを知ることができます。

対象は小学校高学年から

ハワイにわたった日系移民



文：中山京子
森茂岳雄
絵：金子映夏



「弁当からミックスプレートへ」(全10枚)
 は、100年以上前にハワイに渡った千代さん
 と惣太郎さんを主人公にした物語です。千代さ
 んと惣太郎さんのさとうきびプランテーション
 や街での生活が物語られ、プランテーションで
 出会った様々な国からの移民との交流を描いて
 います。ハワイの多文化社会について移民の食
 文化変容と日系移民史を通して描いた作品です。

対象は小学校高学年から

弁当 から ミックスプレートへ

文：中山 京子
 森茂 岳雄
 絵：金子 映夏



カリナの ブラジルとニッポン



絵→西川 洋平
 文→落合 佐江子

「カリナのブラジルとニッポン」(全8枚)は
 来日5年目、小学校6年生の日系ブラジル人三
 世のカリナを主人公にした物語。前半は戦後に
 広島からブラジルへ渡りコーヒー農園で働いた
 カリナの祖父母の話を通してブラジル移民の歴
 史と経験を描いている。後半はカリナが現在日
 本の学校生活で抱えている問題や家族の問題を
 実話をもとに描いている。

対象は小学校高学年から



定点解説キットの紹介

イグアス

日本人移住者が多く暮らすイグアスの町。その様子をのぞいてみましょう。

◆実施場所

- ・イグアスの展示コーナー

◆キットの中身

- ・イグアスの航空写真（白黒の三つ折りパネル）
- ・イグアスの航空写真（カラー）
- ・アルバム1冊
- ・マニュアル



サトウキビ畑の生活・仕事

ハワイに移住した日本人は、多民族・多文化社会の中での生活に直面し、食生活、衣類から生活習慣まで互いに影響を受け合いました。女性は、暑さやつらい仕事とたたかいながら、働きやすいように着物にさまざまな改良と工夫を加えていきました。

◆実施場所

- ・ハワイの官約移民のコーナー

◆キットの中身

- ・写真パネル
- ・手ぬぐい地の帽子
- ・麦わら帽子
- ・ゴムの足型・軍手・鏡

ミックスプレート

日本食しか知らなかった日本人移住者は、同じ畑で働く他国からきた人々のお弁当にある珍しいおかずに興味をもちます。やがておかずを交換し始めました。

◆実施場所

- ・ハワイの官約移民のコーナー

◆キットの中身

- ・写真パネル



宝さがし



展示が難しく、見学への支援が必要な生徒にこのゲームをすすめます。小学生向き写真カードの使用は小学校中学年以上。

◆実施場所

- ・展示室全体

◆キットの中身

- ・中高生向き写真カード 24枚
- ・小学生向き写真カード 20枚
- ・ゾーンマップ・カードのリスト

農作業具

移住者の知恵と工夫を学ぶことができます。写真アルバムは、それぞれの写真が取り外し自由になっています。

◆実施場所

- ・コーヒー・綿花・コショウのコーナー

◆キットの中身

- ・写真アルバム



スーツケース

明日、もしあなたが遠くの国に移住するとしたら、何を持っていくますか？

◆実施場所

・移民の七つ道具のコーナー

◆キットの中身

- ・写真カード入りの小箱 1箱
- ・選んだ写真を入れる容器 4個
- ・トランク（上記の2種類の箱と容器が入っています）
- ・行李 1個
- ・キャスター付きカバン
- （辞書、せんたくひも、服など27の様々な物が入っています）



日系人の食卓

日本の料理そのままのもの、移住地の食材を加工した日本料理に近いもの、現地の料理と合体したものなど、移住者の食卓には珍しい料理が並んでいます。

◆実施場所

・家庭生活のコーナー

◆キットの中身

・アルバム「日系人の食卓」

日系商店・萬屋

移住地で移住者の生活を支えた日系商店は、やがて日系の移住者だけでなく、地域住民が必要とする商品もそろえるようになりました。

◆実施場所

・萬屋カウンターの前。またはカウンターの中。エプロンをつけてみてください。

◆キットの中身

- ・萬屋の品揃えアルバム1冊・エプロン1つ
- ・写真パネル9枚



移住物語

移住を決心した人は乗船までにどのような準備をしたのでしょうか。また移住地までの船上の暮らしはどのようなものだったのでしょうか

◆実施場所

・スーツケースの前あたり

◆キットの中身

・写真アルバム・パスポート

花と製品あてゲーム

コーヒー、コショウ、綿花といった日本人移住者が大切に育てたものを「香りの箱」に入れました。手にとりにおいを嗅ぎ、それらが何かを想像して下さい。

◆実施場所

・コーヒー・綿花・コショウ栽培のコーナー

◆キットの中身

- ・綿花栽培の写真アルバム・圧縮した綿
- ・4つの缶からなる「香りの箱」
- ・写真カード
- （コーヒー関係2枚、綿花関係3枚の計5枚）



海外移住資料館ワークシート

海外移住資料館では、博学連携の一環として、当館を利用して学習指導される先生方の授業活動のご参考になればとワークシートを作成いたしました。展示場において、海外移住の歴史や移住者・日系人の生活について展示ガイドの解説を受けながら、海外移住に関するトピックについて自ら考え、記入する記述式のもの、または、展示解説を受けながら各質問に答えるクイズ式のものがあります。

クイズ式ワークシート

6 移住者は、日本からどんなものを持っていきましたか？
5つ書いてみよう！
〔 〕〔 〕〔 〕〔 〕〔 〕
今、あなたなら何を持っていきたいですか？5つ書いてみよう！
〔 〕〔 〕〔 〕〔 〕〔 〕

5 移住者の多くは、船に乗って移住先まで行きました。当時、日本から**ブラジルのサントス**まで何日かかったでしょう？
〔 〕日

4 何と読むでしょう？
「伯刺西爾」〔 〕
「紐資」〔 〕

3 最初にハワイに出稼ぎに行った移住者は、どんな仕事をするために行った？
〔 〕

2 日本から一番多く移住者が出ている県は何県？
〔 〕県
あなたの都道府県からは移住者が何人でている？
〔 〕都道府県〔 〕人

1 花や野菜を飾りつけたものは何？
〔 〕
歴代全体の飾り、前はアメリカ合衆国の国旗、後ろは？
〔 〕

10 ハワイ・マウイ島への移住者のビッグファミリー(写真の家族)は、1891年に山口県から移住した1世の人々から始まり、現在はその夫婦の子孫ら『世から〔 〕世までの、〔 〕人が住んでいます。人数をかぞえてみよう！

8 移住者たちはどんな仕事をしていましたか？5つ書いてみよう！
ヒント:「なりわい万華鏡」を見てみよう！
〔 〕
〔 〕
〔 〕
〔 〕
〔 〕

7 ブラジル・アルゼンチン・ペルーなど南米地域へ移住した人々が栽培した**代表的な農作物**は何でしょう？3つ書いてみよう！
〔 〕
〔 〕
〔 〕

9 「ブラジル料理」として有名なものは何？2つ書いてみよう！
〔 〕
〔 〕

企画展示ホール
ガイダンス・ホール
案内
入口

★答えが見つからないときは、グリーン色の服を着ているスタッフに聞いてね！

クイズ式ワークシート使用例

展示案内を受け、見学を終えた後、記入する。
分からない問題については、展示案内ボランティアに聞いて記入する。

記述式ワークシート

われら地球人

平成17年度6年生
総合的な学習資料

6年 1組 ()

ハワイに行った人々の生活を知ろう

○ ハワイに旅立った人々は、どんなふうに住まっていたのでしょうか。また、どんな気持ちで働いていたのでしょうか。紙芝居を聞きながらまとめましょう。

	様子	気持ち
仕事	プランテーションなどで うまいを売ってて...	さとうきび畑の仕事を は、とてもつらい。もらえる お金が少な...
仕事着	ずすめ、おちんち、短パン、 ざし。さとうきびの葉など から守るために、たけの葉の かぶりの下には、すし草を はいて、てぬぐいをつけて たしめて...	とてもあつい。とてもが せいがよくないから、 とてもしめじぬぐう。
一緒に働く人々	中国、フィリピン、インド、 ペルー、ジャバネ、ハワイの人 たちの間で仕事をしていた ことは、がぜんせんがうじ ない。	こころを、とまげと いうからこころがいた...

○ ハワイで働く千代さんにも楽しみがありました。カウカウです。千代さんが「楽しい」と思ったのはなぜだと思いますか？

弁当をこうかんするのがたのしい。どんとどんこうかんすること
で、なかがよくなるから、いろいろな国の食べ物を食べられるから
(いそがしをする)

○ いろいろな国からたくさんの人々がハワイに来ることによって、ハワイはどんなふう変わったのでしょうか？

いろいろな国の料理をすることができて、そして、どん
どんいろいろな国の料理を食べることが出来る。ミック
スプレートができた。あといろいろな国の人がハワイ
に来ることによって、いろいろな国の食文化を学んでいった。

○ 「千代さん」の生活を通して、ハワイに移住した人々の生活とハワイについて学習しました。今日の学習で感じたこと、考えたことを書きましょう。

ハワイは、いろいろな国の食文化や服装や
言葉などがもたらされていて、できてい
るんだなーと思いました。そして、そうい
うことがうまれたって、いいものもある
なーと思いました。

▲御嵩町立御嵩小学校の生徒が記入したワークシート

平成18年度高校生国際協力実体験プログラム
ワークシート①「駐時下の海外移住者—強制収容について考える—」

日時: 8月23日
学校名・学年: 津久井浜高 1年
名前: _____

写真を見てください。
何か気づくことがありますか。この写真はどのように作られたのでしょうか。また、あなたがこのような写真を撮られたらどのような思いがするでしょうか。そして強制収容所に入らなければならないとしたらどのような思いがするでしょうか。

*あなたの考えを下に記入して下さい。

最近では、TwitterやFacebookの時に、合衆国内全てのアラブ系やムスリムの人々を一斉に検挙して拘留しようとする動きがありました。あなたはそのような動きに対してどう思いますか。また、日本国内、あるいはあなたの身の回りに「不正」な扱いをされている人々はいませんか。いるとすればそのような人々のために何が出来るでしょうか...

強制収容は、いつまでも繰り返されることだと思いました。
戦争を経験したことのない人たちは話を聞いたり資料館などへ知識を得る事ができませんが昔、強制収容所があったことを忘れてはならないと思いました。そして、同じ向かいを求むてほしいなと思いました。

差別的な言葉や人を差別することは何かある。でもおこ、それはいいないと思いますか。今世界で起こっている現実をわけてみれば、これらどうすればなくなるのだから、どうも考えがまた、思いました。

*このページで足りない場合は裏を挟んで書いてください。
12月1日 強制収容

◆『高校生国際協力実体験プログラム』

参加者が記入したワークシート (2006年8月23日実施)

● 記述式ワークシート使用例 ●

展示案内を受け、個々がワークシートに記入した後、クラス全体で、ワークショップ式の時間を設け、それぞれの考えを発表し、個々が気付いたこと、感じたこと等について意見交換する。

移民関連年表

第Ⅰ期 海外渡航のはじまり 1853～1884

- 1853年（嘉永6） ペリー提督が「黒船」で浦賀に来航、幕府に開国を迫る
- 1859年（安政6） 幕府は神奈川（横浜）、長崎、函館を開港し条約締結国と通商を開始
- 1866年（慶応2） 「御免の印章」の交付がはじまり、海外渡航が許可される
- 1868年（明治元） アメリカ人商人ヴァン・リードが日本人労働者をハワイとグアムへ送る

第Ⅱ期 海外出稼ぎのはじまり 1885～1907

- 1885年（明治18） 第1回「ハワイ官約移民」945名が横浜を出発、以後1894年までに約2万9千人がハワイに渡る
- 1891年（明治24） 民間最初の移民会社、日本吉佐移民合資会社が設立される
- 1894年（明治27） 日清戦争（～1895）
- 1897年（明治30） 榎本武揚がメキシコに日本人労働者34名を入植させる
- 1899年（明治32） ペルー行第1回移民790名が佐倉丸で渡航、一部がポリビアへ転住
- 1904年（明治37） 日露戦争（～1905）

第Ⅲ期 定住移民のはじまり 1908～1940

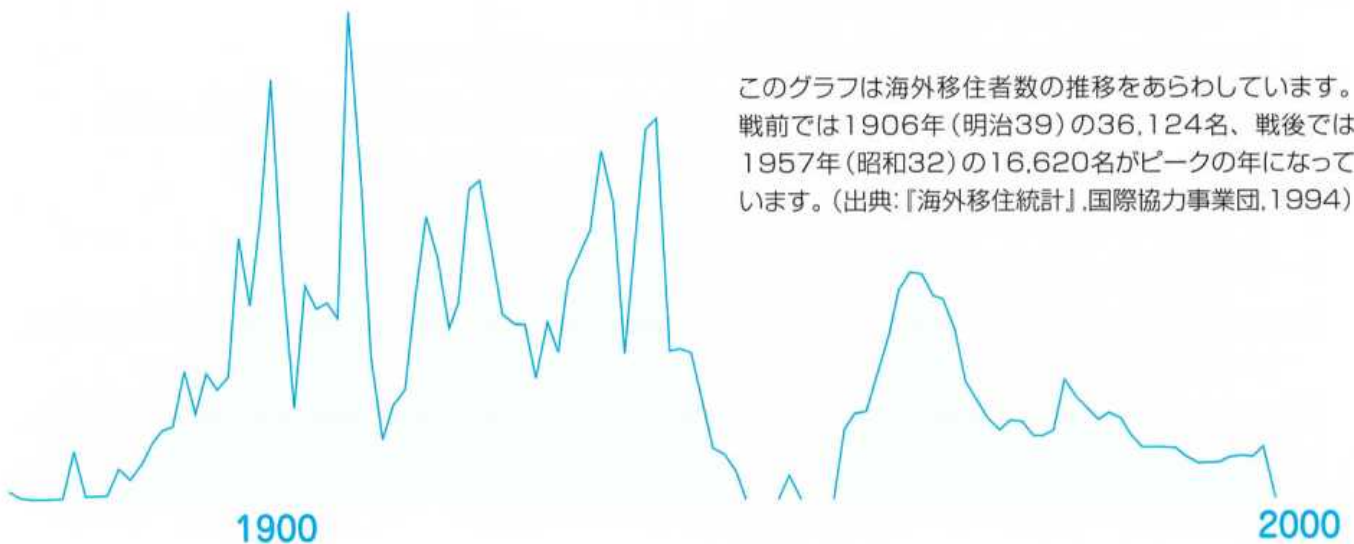
- 1908年（明治41） アメリカ向け移住制限に関する日米紳士協約締結、ブラジル行第1回移民781名が笠戸丸で渡航、一部がアルゼンチンへ転住
- 1914年（大正3） 第一次大戦（～1918）
- 1917年（大正6） 移民会社を統合し、海外興業株式会社を設立
- 1923年（大正12） 関東大震災による不況深刻化、ブラジル向け移民渡航費補助開始
- 1924年（大正13） アメリカ排日移民法
- 1925年（大正14） 日本政府がブラジル行移民に対して船賃・取扱手数料全額負担を決定
- 1928年（昭和3） 神戸に移民収容所設置、世界恐慌
- 1931年（昭和6） 満州事変
- 1934年（昭和9） ブラジルが移民の入国を制限（外国移民二分制限法）
- 1936年（昭和11） パラグアイで日本人移住地が開設される
- 1937年（昭和12） 日中戦争（～1945）
- 1939年（昭和14） 第二次世界大戦（～1945）

第Ⅳ期 海外移住の中断 1941～1945

- 1942年（昭和17） アメリカとカナダで日系人の強制収容がはじまる
ペルーで在留日本人の北米への強制移送が始まる
- 1945年（昭和20） ポツダム宣言受諾により日本が無条件降伏

第Ⅴ期 戦後移住のはじまり 1946～1999

- 1952年（昭和27） 対日講和条約が発効し日本人の海外移住が再開、日本政府による渡航費貸付戦後計画移住第一陣がアマゾンへ渡航
- 1954年（昭和29） 日本海外移住協会連合会設置
- 1955年（昭和30） 日本海外移住振興会社設置、外務省に移住局設置、海外移住審議会設置
- 1956年（昭和31） 横浜に移住斡旋所設置、ドミニカ共和国行第一回移住者28家族が渡航
- 1957年（昭和32） ボリビア行第一回移住者が渡航
- 1963年（昭和38） 海外移住事業団設立
- 1971年（昭和46） 神戸移住センターが閉鎖される
- 1972年（昭和47） 沖縄県の本土復帰**
- 1973年（昭和48） 最後の移民船「にっぽん丸」が横浜を出航
- 1974年（昭和49） 国際協力事業団発足
- 1978年（昭和53） オーストラリア移住開始
- 1985年（昭和60） プラザ合意（新国際通貨制度発足）を機に日本における日系人の就労が始まる
- 1988年（昭和63） アメリカとカナダで日系人強制収容に対する賠償法が制定される
- 1990年（平成2） ペルーに初の日系大統領誕生、出入国管理及び難民認定法の改正により日本における日系人の就労緩和
- 1993年（平成5） 日本政府による移住者送出事業の終焉
- 1994年（平成6） ブラジルからの日本国内就労者17万人を超える
- 1995年（平成7） 日本ブラジル修好100周年
- 1997年（平成9） メキシコ日本人移住100周年
- 1999年（平成11） ペルー、ボリビア日本移住100周年
-
- 2001年（平成13） アメリカ中枢都市で同時多発テロ
- 2002年（平成14） 海外移住資料館開設
- 2003年（平成15） 独立行政法人国際協力機構発足
- 2004年（平成16） 天皇后両陛下、海外移住資料館をご視察



■児童生徒が読める日系移民に関する図書15冊

1. ヨシコ・ウチダ(中山庸子訳)『写真花嫁』学芸書林、1990年
2. ケン・モチズキ作、ドム・リー絵(ゆりようこ訳)『かこいをこえたホームラン』岩崎書店、1993年
3. グレアム・ソールズベリー(さくまゆみこ訳)『その時ぼくはパールハーバーにいた』徳間書店、1994年
4. 白相昭夫『ブラジル移住少年の日記』健友社、1995年
5. 山本耕二『母と子でみる戦争と日系人』草の根出版会、1995年
6. M.O.タンネル&G.W.チルコート『トパーズの日記-日系アメリカ人強制収容所の子どもたち-』金の星社、1996年
7. 藤崎康夫『ブラジルの大地に生きて-「日系移民の母トミ・マルガリータの生涯-」くもん出版、1998年
8. 坂井俊樹監修『日本の歴史-明治維新(5) 国境をこえた人びとの歴史-』ポプラ社、1999年
9. ヨシコ・ウチダ、(吉田悠紀子訳)『ゴールドヒルのサムライ』ひくまの出版、1999年
10. スティーブン・A. チン『正義をもとめて-日系アメリカ人フレッド・コレマツの闘い-』小峰書店、2000年
11. 森茂岳雄・中山京子・川崎誠司『日系アメリカ人の歴史-アメリカに渡った日系移民の歩み-』全米日系人博物館、ロサンゼルス、2001年
12. ロイ・キヨオカ(増谷松樹訳)『カナダに渡ったサムライの娘-ある日系一世の回想-』草思社、2002年
13. 上坂冬子(文)、かこさとし(絵)『ユタ日報のおぼあちゃん 寺澤国子-海を渡った日本人-』瑞雲舎、2004年
14. 加藤晴巳『ここが私の故郷です-コロラド・サンルイスバレー-日本人移住者の物語-』新風社、2004年
15. 矢野 徹『442』柏艸舎、2005年

■教師の教材研究に役立つ日系移民に関する図書15冊

1. 今野敏彦・藤崎康夫編著『移民史(全3巻)』新泉社、1984~1986年
2. 鈴木讓二『日本人出稼ぎ移民』平凡社、1992年
3. 高橋幸春『日系ブラジル移民史』三一書房、1993年
4. 飯野正子『日系カナダ人の歴史』東京大学出版会、1997年
5. 藤崎康夫『写真絵画集成日本人移民』(全4巻)日本図書センター、1997年
6. 本間圭一編・読売新聞社宇都宮支局編『南米日系人の光と影-デカセギから見たニッポン-』随想社、1998年
7. 駒井洋『日本の外国人移民』明石書店、1999年
8. 森茂岳雄編『多文化社会アメリカにおける国民統合と日系人学習』明石書店、1999年
9. 柳田利夫文・義井豊写真『ペルー日系人の20世紀-100人の人生100人の肖像-』芙蓉書房出版、1999年
10. リリ川村『日本社会とブラジル移民-新しい文化の創造をめざして-』明石書店、2000年
11. 佐々木敏二『日本人カナダ移民史』不二出版、1999年
12. 坂口満宏『日本人アメリカ移民史』不二出版、2001年
13. アケミ・キクムラ=ヤノ編(小原雅代他訳)『アメリカ大陸日系人百科事典-写真と絵で見る日系人の歴史-』明石書店、2002年
14. レイン・リョウ・ヒラバヤシ他編(移民研究会訳)『日系人とグローバリゼーション-北米・南米・日本-』人文書院、2006年
15. 山本岩夫・ウェルズ恵子他編『南北アメリカの日系文化』人文書院、2007年



●本書執筆（執筆順）

- 森茂岳雄（中央大学）
- 中山京子（京都ノートルダム女子大学）
- 岸野存宏（東京学芸大学附属世田谷小学校）
- 鈴木雄治（東京学芸大学附属世田谷中学校）
- 小林茂子（実践女子大学）
- 田尻信壹（富山大学）

海外移住資料館 学習活動の手引き〈改訂版〉

発行：独立行政法人国際協力機構横浜国際センター
海外移住資料館

お問い合わせ先

JICA横浜 海外移住資料館

〒231-0001
神奈川県横浜市中区新港 2-3-1
JICA横浜 海外移住資料館
Tel : 045-663-3257/Fax : 045-222-7162
Web : <https://www.jica.go.jp/jomm/>
E-mail : info@jomm.jp

2007年3月改訂

